

Japan Institute of the Moving Image

日本映画大学

映画学部

履修ガイド

1年生

2024年度

教育方針

建学の精神

1975 年、今村昌平監督は「横浜放送映画専門学院」を開設した。

かつては映画人の育成は撮影所が行っていた。しかし撮影所にもうその余裕はなく、映画を志す若者たちの行き場がなくなっていたのである。

今村が目指したのは映画人による実践的な映画教育だった。「既成のレールを拒否し、曠野に向かう勇気ある若者たちよ、来たれ！」という呼びかけに全国の若者たちが集まった。

その後、横浜から川崎新百合ヶ丘に移り、「日本映画学校」と名を変えても、途切れなく映画界、芸能界に人材を供給してきた。それ以外の卒業生たちも、ここで学んだ映画的思考を武器に、他の分野で活躍している。

映画は伝統芸能ではない。技術革新に対応し社会変化に運動し、時代によってその形を変えていくものだ。白黒からカラー、サイレントからトーキー、フィルムからデジタル——それまでの常識が否定されたとき、映画表現は一気に拡大した。改革を怖れず、新しい技術を駆使し、人種国境文化の壁を軽々と越え、人間の営み、その愚かさと美しさを描いてきた。

社会が変われば映画も変わり、映画に必要とされるものも変化していく。激動の世界に対応できる才能を育てるため、2011年春「日本映画学校」は「日本映画大学」に生まれ変わった。

未来の映画人には、これまで以上に高い技術力と広い教養、世界に通じる見識が求められるだろう。

しかし、最も大切なのは自由な精神、未踏の地に踏み込む勇気である。

これからも我々は、「曠野に向かう勇気ある若者たち」の集まる場所であり続けたい。そう願っている。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

日本映画大学は以下のような学生を求めています。

- 1) 美醜や善悪および人間の欲望全般に強い関心を持っている。
- 2) 映画や小説をはじめ芸術・芸能が好きである。
- 3) 他人と協力することができる。

カリキュラム・ポリシー（カリキュラムの編成方針）

日本映画大学は、以下の科目構成によって、映画制作の技術を実践的に体得し、映像文化の歴史を理論的に理解し、社会に貢献する教養と人格を身につけた学生を育成します。

- 1) 教養科目 ……映像文化の歴史を知り、映像を読み解くための基礎的な学力を身につける。同時に、映画にとどまらず広く社会一般を洞察する力を養う。
- 2) 基礎科目 ……演習を通して映画制作の基礎的な知識と技術を学ぶ。
- 3) 専門基礎科目 ……各コースの基礎を学ぶとともに、専門科目で修得する知識や技術をさらに発展させるための力を身につける。
- 4) 専門科目 ……各コースに分かれて専門性を究めるとともに、他のコースと合同で課題に取り組むことでチームワークの重要性を理解し、コミュニケーション能力の向上を図る。
- 5) 4年間の学びの集大成として、卒業制作に取り組む。社会との関わりを持つため、成果の公表まで学生の手で行う。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

日本映画大学は、以下の要件を満たした学生に、学士（映画学）の学位を授与します。

- 1) 映画制作の技術の実践的な体得 [技術]
- 2) 映像文化の歴史の理論的な理解 [理論]
- 3) 社会に貢献するための教養と人格 [教養]
- 4) 他者とともに問題解決に臨む姿勢 [協調]

カリキュラムについて

本学のカリキュラムは、学生全員が映画制作の全体像を知り、技術を修得すると同時に、映像や文化、社会に対する知識と幅広い教養を身につけることを目的として編成されています。

それぞれの授業科目は、専門性の度合や履修する上での条件、授業の形態、時間割の特徴などによって以下のように区別されています。

【1】科目区分

専門性の度合に応じて、「教養科目」「基礎科目」「専門基礎科目」「専門科目」の4つの科目区分があります。

【2】科目分類

履修する上での条件に応じて、3つの科目分類があります。

必修科目と、選択必修科目のうち系やコースごとに決められた科目は、修得しなければ次のステップに進めなくなるので注意してください。

必修科目	必ず修得しなければならない科目です。
選択必修科目	指定された科目群の中から、決められた科目数および単位数を修得しなければならない科目です。次の2種類があります。 ①系・コースごとに決められた科目 ②系・コースを問わず決められた単位数を選択して履修する科目。
選択科目	興味に応じて自由に選択できる科目です。ただし、教養科目は各群から最低1科目以上を修得する必要があります。

【3】授業形態と単位数

授業の形態に応じて、必要な学修時間と単位数が定められています。

講義	主に教員が学生に対して学問研究の内容を説明することにより知識を授ける授業です。 15時間の授業をもって1単位とします。この他に30時間相当の自習学修が必要です。
演習	教員の講義だけでなく、学生も作品制作・発表等を行いながら指導を受ける授業です。 15時間（または30時間）の授業をもって1単位とします。この他に30時間（または15時間）相当の自習学修が必要です。
実習	学んだ知識をもとに実際の場で学習する授業です。 30時間（または45時間）の授業をもって1単位とします。30時間の授業の場合は、この他に15時間相当の自習学修が必要です。

※ 1コマ（90分）の授業時間を2時間相当と計算する。

【4】授業期間

各授業科目は、次の授業期間に配当されています。なお、前期・後期をそれぞれ8週ごとに区切るターム制を導入しています。

半期科目	前期または後期の半期間を通して行われる授業科目です。成績は各期末に付与されます。
通年科目	前期および後期の1年間を通して行われる授業科目です。成績は後期末に付与されます。
集中科目	夏期・春期休業期間に連続して数日間実施される授業科目です。後期科目として配当され、成績も後期末に付与されます。

【5】講義型

それぞれの授業科目には、時間割編成上の「講義型」が設定されています。「講義型」を見ると時間割のパターンがわかります。※ 1コマは90分。

B (3×5)	1週目から3コマ連続の授業が5週行われます。
C1 (1+2×7)	初回1週目は1コマの授業、翌週から2コマ連続の授業が7週行われます。
C2 (2×7+1)	1週目から2コマ連続の授業が7週行われ、最終8週目は1コマの授業となります。
C3 (2×6+3)	1週目から2コマ連続の授業が6週行われ、最終7週目は3コマの授業となります。
C4 (2×8)	1週目から2コマ連続の授業が8週行われます。
D (日数型)	演習型の科目など、1日単位で行われる授業となります。
W (週数型)	演習型の科目など、1週間単位で行われる授業となります。
E (集中)	夏期や春期などの休業期間に集中的に行われます。
F (その他)	上記のいずれにもあてはまらない科目です。

履修について

単位を修得するためには、事前に履修したい科目を登録する必要があります。以下のルールをよく理解した上で履修登録に臨んでください。

履修にあたっての9つのルール

- ルール 1** **単位を修得するためには、必ず履修登録をしなければならない。**
履修登録していないと、いくら授業に出席していても単位の修得は認められません。
- ルール 2** **1 年間に登録できる単位数は、1 年生は46単位まで、2 年生以降は42単位までです。**
2 年生以降は、前年度の G P A が 3.5 以上の学生は、履修単位数の上限に 6 単位が加算されます。
前年度の G P A が 3.0 以上の学生は、履修単位数の上限に 4 単位が加算されます。
前年度の G P A が 1.5 未満の学生は、学修指導の必要上、履修単位数の上限を減じることがあります。
- ルール 3** **定められた配当年次を超えて履修することはできない。**
履修しようとする科目が自分の年次に開講されていない場合、その科目を履修することはできません。
- ルール 4** **専門科目の選択必修科目は、系・コースごとに履修できる科目が異なる。**
系・コースで指定された科目以外を履修することはできません。
- ルール 5** **科目によっては、履修の際に条件がつけられている場合がある。**
指定の科目が履修完了していないと履修できない科目があります。シラバスの「履修条件」欄で確認してください。
科目名のローマ数字（Ⅰ・Ⅱ）は順番に履修しなければならない科目、アラビア数字（1～6）は順番に関係なく自由に選択できる科目（必修を除く）です。
- ルール 6** **単位を修得した科目を再度履修することはできない。**
単位を修得した（成績が付与された）科目は、不合格（F）評価の場合を除き、再度履修することはできません。
- ルール 7** **同一科目を年に 2 回履修登録することはできない。**
前期で不合格（F）となった科目が後期に開講されていても、後期に再度履修登録することはできません。
- ルール 8** **履修登録が済んでも、定員超過などにより登録できていない可能性がある。**
履修登録が済んでも登録は確定していません。「履修登録確認表」で登録結果を確認し、不足がある場合は追加履修登録をしてください。
- ルール 9** **授業について行けなくなった場合などに、履修取消制度を使って登録した科目を取り消すことができる。**
履修を放棄した科目をそのままにすると不合格となり、GPA（成績平均値）が下がってしまいますが、所定の期間に申請すれば履修を取り消すことができます。取消した単位分を後から追加履修登録することはできません。

卒業するためには

本学を卒業するためには、修業年限を満たし、卒業に必要な科目を履修し、合計**124単位以上**を修得しなければなりません。修業年限とは、教育課程を修了して卒業するために必要な在学年数で、休学期間を除いて4年間です（編入学生は除く）。以下の5つのルールをよく読んで、1年次から計画的な履修を心がけてください。

卒業要件を満たすための5つのルール

- ルール1

必修、選択必修、選択科目あわせて合計124単位以上を修得しなければならない。
・124単位ぎりぎりではなく、単位数にある程度余裕をもたせて履修登録しましょう。
- ルール2

必修、選択必修科目の単位が足りないからといって選択科目で充当することはできない。
・必修28単位、選択必修48単位は必ず修得しなければなりません。
- ルール3

必修科目、専門科目が不合格になると次のステップに進めず、4年で卒業できなくなる。
・必修科目と専門科目は、履修しなければならない科目が決められています。配当年次に必ず修得しなければなりません。不合格になった場合は次のステップに進めず、4年での卒業ができなくなります。
- ルール4

教養科目は「5つの群からそれぞれ1科目、合計10単位」以上を修得しなければならない。
・教養科目には「映画史」「映画文化」「文学・芸術」「歴史・社会科学」「コミュニケーション」の5つの科目群があります。
10単位以上は「 α 」に組み入れられます。
- ルール5

専門基礎科目は「2科目、合計4単位」以上を修得しなければならない。
・専門基礎科目は2科目、合計4単位の修得が必要な選択必修科目です。4単位以上は選択科目（ β ）に組み入れられます。
・系・コースを問わず履修することができますが、定員を超過した場合は履修条件に記載された系・コースが優先されます。

卒業必要単位数

令和4（2022）年度以降入学者					数字：単位数	
コース	区 分		必 修	選択必修	選 択	
全コース共通	教養科目	基幹	14	—	—	
		映画史科目群	—	—	10 ※1	α
		映画文化科目群				
		文学・芸術科目群				
		歴史・社会科学科目群				
		コミュニケーション科目群				
	基礎科目		14	—	—	
	専門基礎科目		—	4 ※2	β	
	専門科目		—	44	—	
※1 「各群から1科目10単位」を選択。10単位を超えた分は選択科目に組み入れられる。 ※2 2科目以上選択。2科目を超えた分は選択科目に組み入れられる。			28	48	10	$\alpha + \beta = 38$
					48	
			卒業必要単位合計 124 単位			

シラバスの見方

「シラバス」には、本学のすべての授業科目についての詳細が記載されています。必ず履修したい科目のシラバスを読み、授業内容や到達目標、評価項目・評価方法をよく理解したうえで履修登録をしてください。

次のページに各項目の読み方を示します。

2024 年度																									
科目名		映画史概論（前期）						担当教員		伊津野知多															
科目区分	教養(映画史)			科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術		協調		理論		教養		
履修学年	1	開講学期		前期		ターム		1	講義型		C2		校舎		白山				15		5				
履修条件		前期・後期に同じ科目を開講する。前期・後期のいずれかで履修すること。前期に不合格となった場合「映画史概論（後期）」を履修することはできない。「日本映画史 1」もあわせて履修することを強く勧める。また、知識を補強するためにはかの映画史科目も履修してほしい。																							
授業概要		若い芸術である映画にも既に120年を超える歴史がある。社会の変化と技術の革新、そして人間の欲望の変化に伴って映画は常に姿を変えてきた。この歴史の層の一番表面の部分が、今見えている映画なのだ。 この授業では、映画の誕生から1970年代まで、時代ごとに重要な社会的出来事や用語、作品について解説しながら映画の姿の変化を追う。授業は講義と参考上映で構成され、毎回、前回の授業内容について的小テストを行う。 映画史を7週間に凝縮するので、細部に分け入るのではなく、映画史の大まかな見取り図を描くことを目的としている。これから映画を学ぶ上で支えとなる視点と、基本的な知識を修得してほしい。																							
到達目標		①映画史の大きな流れが理解できるようになる。 ②映画史上の重要な用語や監督、作品についての知識を身につけることができる。 ③多くの映画作品に触れることで、創作に役立つアイデアを得ることができる。																							
授業計画	回数	内 容																							
	1	1895～1900年代： 映画の誕生 ①1890年代：動く映像のもたらした驚き																							
	2	②1900年代：映像で語る物語へ——映画表現技法の発見																							
	3	1900～1910年代： 映画産業の始まり、映画表現技法の発達と洗練 ①映画産業の始まりとハリウッドの誕生																							
	4	②映画表現技法の発達と浸透、物語る映画の洗練																							
	5	1920年代： サイレント映画の時代、アヴァンギャルドの隆盛 ①1920年代という時代：新しい価値観への転換 ②アメリカ：ハリウッド映画産業の成長と「垂直統合」																							
	6	③ヨーロッパのアヴァンギャルド（前衛）映画 ④ソヴェエトのモンタージュ派 ⑤日本映画のサイレント時代																							
	7	1920年代末～1930年代： トーキー映画の到来、古典的ハリウッド映画の確立 ①1930年代という時代：社会不安と戦争の影響 ②トーキー映画の到来 ③カラー映画の技術革新																							
	8	④ハリウッド映画の黄金時代 ⑤フランスの詩的リアリズム																							
	9	1930年代末～1940年代： 戦争と映画（プロパガンダ映画） ①1940年代という時代：第二次世界大戦とその影響																							
	10	②戦時下のプロパガンダ映画 ③占領下の日本映画																							
	11	1940年代～1950年代：戦争から戦後へ、古典的ハリウッド映画の変容 ①瓦礫の中からの出発——イタリアのネオリアリスモ ②古典的ハリウッド映画の変容（1940年代～）																							
	12	③1950年代という時代：東西冷戦と赤狩り ④ハリウッドのスタジオ・システムの弱体化																							
	13	1960年代～1970年代：スタジオ・システムの終焉と映画の新しい波 ①1960～70年代という時代：政治の季節——社会と価値観の変革のための闘い ②ハリウッドのスタジオ・システムの終焉																							
	14	③新たな産業構造の成立と「ニュー・ハリウッド」の誕生 ④アメリカ映画の変容 ⑤各国映画の新しい波																							
	15	最終テスト（60分） ※スマートフォン、資料の持ち込み禁止。辞書（電子辞書含む）は持ち込み可。 終了後解説																							
授業外学習		・授業内で部分的に上映した作品、名前を挙げた作品をできるだけ多く自分で見ること（「映画史基礎」の準備にもなる）。（週3時間程度） ・知識を自分のものにできるよう、配布したプリントや参考文献に示した本を読んで復習すること。（週1時間程度）																							
教科書 参考文献		初回の授業で参考文献表と授業で扱う映画作品の一覧を配布する。また、各回の授業で参考となる映画作品を指示する。																							
評価項目 評価方法		①授業の理解度（小テスト）20％：小テストは3問の質問に解答する形式。毎回授業の開始時に、前回の授業内容について的小テストを行う（遅刻に注意）。 ②授業の理解度（リアクションペーパーの内容）20％：リアクションペーパーは、毎回授業終了時に提出。 ③授業の理解度（最終テスト）60％：最終テストは最後の授業内に実施し、授業終了時に提出。 ※すべて出席してもテストの成績が悪いと不合格になる場合があるので注意すること。 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																							

科目名	授業科目名のほか、〈 〉には副題が、() [] にはコースまたはクラスの指定がそれぞれ記載されています。 科目名のローマ数字（Ⅰ・Ⅱ）は順番に履修しなければならない科目、アラビア数字（１～６）は順番に関係なく自由に選択できる科目（必修を除く）です。
担当教員	この科目を担当する教員（演習型科目については専任教員・特任教員のみ）が記載されています。 複数の担当者が記載されている場合は、先頭の教員が科目責任担当教員となります。
科目区分	専門性の度合に応じて、「教養科目」「基礎科目」「専門基礎科目」「専門科目」に区分されます。
科目分類	履修する上での条件に応じて「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」に分類されます。
授業形態・単位数	すべての授業科目は、「講義」「演習」「実習」のいずれかに属します。これら授業の形態に応じて、必要な学修時間と単位数が定められています。学修時間には授業外の自習時間も含まれます。「授業外学習」欄を参照してください。
履修学年	この科目を履修できる学年を表しています。他の学年での履修はできません。
開講学期・ターム	授業が行われる時期を表しています。前期の前半がターム１、後半がターム２、後期の前半がターム３、後半がターム４です。 「通年」の科目は前期と後期を通して授業が行われます。
講義型	各授業科目には、時間割編成上の「講義型」が設定されています。「講義型」を見ると時間割のパターンがわかります。 くわしくは３ページを参照してください。
校舎	授業が行われる校舎（白山校舎か新百合ヶ丘校舎か）を表しています。
DPとの対応	この科目と本学の卒業認定・学位授与の方針である「ディプロマ・ポリシー」（DP）の関係を数値で示したものです。 ディプロマ・ポリシーは、卒業するためにどのような能力や資質を身につけてはならないかを表します。 １）映画制作の技術の実践的な体得 【技術】 ２）映像文化の歴史の理論的な理解 【理論】 ３）社会に貢献するための教養と人格 【教養】 ４）他者とともに問題解決に臨む姿勢 【協調】 数値は、この科目がDPのどの能力・資質と密接に関連しているか、その科目の履修を通してどの能力・資質を身につけることができるかを表します。合計がその科目の単位数の10倍の値になるように設定されています。
履修条件	その科目を履修する前に履修しなければならない科目（先修条件）、履修しておくことが望ましい科目が記載されています。 また履修に制限や条件がある場合もこの欄に記載されています。
授業概要	授業で扱う学問的テーマ、ねらい、授業の進め方など、授業内容の概略が記載されています。
到達目標	この科目を履修した結果、どのような知識や能力を身につけられるかが記載されています。
授業計画	毎回の授業計画が記載されています。各回に何を学ぶのか、どのような授業が行われるのかをあらかじめ知ることができます。
授業外学習	授業外での事前・事後の自習学習（予習・復習）に必要な時間や学習内容等についての指示が記載されています。
教科書・参考文献	使用する教科書、参考文献等が記載されています。教科書はその科目を履修するうえで必ず入手しなくてはなりません。 教科書の入手方法は掲示によって行います。
評価項目・評価方法	この科目の成績評価が、どのような評価項目について、どのような評価方法に基づいて行われるのかが記載されています。 どの科目も出席するだけで単位を修得することはできません。評価方法と評価項目をよく読んで授業にのぞんでください。

教養科目

4年間を通して学ぶ教養科目は、映画をつくり映画について考えるときに必要な教養を、幅広く身につけるための科目群です。基幹以外の5つの群から興味のあるものを選んで、さまざまな分野についての知識を深めることができます。

履修のポイント

- ・基幹の「ベーシック・スキル」1・2・3と「人間総合研究」は必修科目です。他は選択科目です。
- ・教養科目は、5つの群からそれぞれ1科目、合計10単位以上を修得しなければなりません。
- ・10単位を超えた教養科目（α）と、4単位を超えた専門基礎科目（β）をあわせて38単位以上になるように履修してください。
- ・科目名のローマ数字（Ⅰ・Ⅱ）は順番に履修しなければならない科目、アラビア数字（1～6）は順番に関係なく自由に選択できる科目（必修を除く）です。
- ・指定されている配当年次以外での履修はできません。

丸数字：単位 *印：4年次も履修可

科目群	1年次		2年次		3年次・4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基幹 (必修)	ベーシック・スキル 1 ②			ベーシック・スキル 3 ②		
	ベーシック・スキル 2 ②					
	人間総合研究 ⑧					
映画史	日本映画史 1 ②	映画史概論 ②	日本映画史 2 ②			
	映画史概論 ②		ドキュメンタリー映画史 ②			
	映画史基礎 ② (2年間かけて修得する科目。1年次は仮登録、2年次に履修登録を行う。)				映画史基礎 ② ※4年のみ	
映画文化	映画分析論 ②	テーマ研究 1 ②	映画解釈論 ②	テーマ研究 2 ②	テーマ研究 3 ②	テーマ研究 4 ②
	表象文化論 1 ②	サブ・カルチャー論 ②		表象文化論 2 ②*	フィルム・アーカイブ ②	テーマ研究 5 ②
		シナリオ研究 ②			アニメーション・特撮文化論 ②	テーマ研究 6 ②
						日本文化論 ②
文学・芸術	文芸映画論 ②	映画と文学 ②	ファッション文化史 ②*	映画と演劇 ②*	映画と音楽 ②	映像と美術 ②
		芸能概論 ②	美術史 1 ②	写真論 ②	映画と哲学 ②	
				文学 ②	演劇史 ②	
				美術史 2 ②	英米文学 ②	
歴史・ 社会科学		映画で学ぶ歴史と社会 1 ②	映画流通論 ②	デジタル映像技術概論 ②	映画で学ぶ歴史と社会 3 ②	映画で学ぶ歴史と社会 4 ②
		映画で学ぶ歴史と社会 2 ②	社会学 ②*		映画と法 ②	映画で学ぶ歴史と社会 5 ②
						映画で学ぶ歴史と社会 6 ②
コミュニケー ション		中国語 ②	英語 1 ②	韓国語 ②*	英語 2 ②	英語 3 ②
					こども映画教育 I ②	こども映画教育 II ② 【夏期集中】
					文章表現 ②	キャリア・サポート ② ※3年のみ
	国際合同制作 ④ 【通年】※隔年開講		国際合同制作 ④ 【通年】※隔年開講		国際合同制作 ④ 【通年】※隔年開講	

基礎科目

基礎科目は、1年次から2年次前期に配当されています。映画づくりに必要な基礎知識と技術を修得するための科目です。

系・コースに分かれるまでのながれ

1年次 前期	大学での学びへの導入「ベーシック・スキル」1・2（教養科目） 大学で学ぶために必要な心構えと基礎的な力を、複数の教員による講義とワークショップを通して身につけます。
	脚本の基礎を学ぶ「シナリオ基礎演習」 脚本の書き方の基本を修得します。
	創ることの基本を学びチームワークを磨く「人間総合研究」（教養科目） 本学の看板授業。仲間とともに作品をつくり上げていく力を実践的に身につけます。
▼	
1年次 後期	映画制作の基礎を学ぶ「映画制作基礎演習」 デジタルでの映画制作を学びます。映画作りの全工程を一通り体験し、系・コース選択への道筋をつけます。
	本格的な脚本の書き方を学ぶ「長編シナリオ演習Ⅰ」 劇場映画の長さのシナリオを書くための実践的な方法を修得します。
▼ ここで系またはコースを選択します。	
1年次 春休み	春休みに200枚のシナリオを各自で執筆します。
▼ 2年次からは系またはコースに分かれて学びます。	
2年次 前期	脚本を書くために不可欠な“直し”の技術を修得する「長編シナリオ演習Ⅱ」 自分の書いたシナリオを丁寧に直していくことで、よりよいものに仕上げていきます。
▼	
2年次 後期	高度な学びのための準備「ベーシック・スキル」3（教養科目） 3・4年次の専門コースでの学びに必要な読解力と表現力を、講義とワークショップを通して身につけます。

履修のポイント

・基礎科目はすべて必修科目です。必ず修得しなければなりません。

丸数字：単位

	1年次		2年次
	前期	後期	前期
基礎科目	シナリオ基礎演習 ②	映画制作基礎演習 ⑧ 長編シナリオ演習Ⅰ ②	長編シナリオ演習Ⅱ ②

専門基礎科目

専門基礎科目は、原則として2年次から3年次に配当されています（「演劇WS」は1年次）。1年次に修得した基礎的な知識と、2年次から系・コースに進んで学ぶ専門的な知識をつなぎ、段階的にそれぞれの専門性を補完するための科目です。ワークショップ形式で行われる“WS”科目は、体験をとおして知識や技術を修得できるようになっています。

履修のポイント

- ・専門基礎科目はすべて選択必修科目です。2科目、合計4単位以上を修得しなければなりません。4単位以上は選択科目として扱われます。
- ・4単位を超えた専門基礎科目（β）と、10単位を超えた教養科目（α）をあわせて38単位以上になるように履修してください。
- ・指定されている配当年次以外での履修はできません。
- ・すべての系・コースの学生が履修できます。

丸数字：単位

	2年次		3年次	
	前期	後期	前期	後期
専門基礎 科目	ドキュメンタリーWS ②	演出論Ⅰ ②	脚本創作論 ②	演出論Ⅱ ②
	映像リテラシーWS ②	録音WS ②	編集実践技術論 ②	
		動画配信WS ②		
		映画美術WSⅠ ②【夏期集中】		
	演劇WS ②【春期集中】※1年後期	映画美術WSⅡ ②【春期集中】		

専門科目

専門科目は、2年次から4年次に配当されています。系・コースに分かれて専門性を深めていくための科目です。4年次には、身につけた知識と技術を総動員して、学修の集大成としての卒業制作に取り組みます。

履修のポイント

・専門科目はすべて選択必修科目です。系・コースごとに履修しなければならない科目が決められています。他の系やコースの科目の履修はできません。

丸数字：単位

		2 年次			3 年次			4 年次
		前期	後期		前期	後期	前期・後期	
演出系		演出基礎演習Ⅰ ⑧ 〈ドキュメンタリー〉	演出基礎演習Ⅱ ⑧ 〈ワンシーン〉	コース 選 択	ドキュメンタリーコース	ドキュメンタリー専門演習Ⅰ ⑧	ドキュメンタリー専門演習Ⅱ ⑧	卒業制作 ⑫ 〈ドキュメンタリー〉
					身体表現・俳優コース	身体表現専門演習 ⑧		卒業制作 ⑫ 〈公演〉
					演出コース	演出専門演習 ⑧ 〈3分エチュード〉		
技術系	撮影照明コース	撮影照明基礎演習 ⑧	撮影照明専門演習 ⑧	▶	撮影照明コース	合同制作 ⑧		卒業制作 ⑫ 〈ドラマ〉
	録音コース	録音基礎演習 ⑧	録音専門演習 ⑧	▶	録音コース	技術合同演習 ⑧		
	編集コース	編集基礎演習 ⑧	編集専門演習 ⑧	▶	編集コース			
	VFX特殊撮影コース	VFX特殊撮影基礎演習Ⅰ ⑧	VFX特殊撮影基礎演習Ⅱ ⑧	▶	VFX特殊撮影コース	VFX特殊撮影専門演習Ⅰ ⑧	VFX特殊撮影専門演習Ⅱ ⑧	卒業制作 ⑫ 〈VFX特殊撮影ドラマ〉
文章系		文章系基礎演習Ⅰ ⑧	文章系基礎演習Ⅱ ⑧	コース 選 択	脚本コース	脚本専門演習Ⅰ ⑧ 〈脚本技法〉	脚本専門演習Ⅱ ⑧ 〈脚色〉	卒業制作 ⑫ 〈シナリオ〉
					文芸コース	文芸専門演習Ⅰ ⑧ 〈小説〉	文芸専門演習Ⅱ ⑧ 〈批評〉	卒業制作 ⑫ 〈文芸〉
マネジメントコース		マネジメント基礎演習Ⅰ ⑧	マネジメント基礎演習Ⅱ ⑧	▶	マネジメントコース	マネジメント専門演習Ⅰ ⑧	マネジメント専門演習Ⅱ ⑧ 〈プロデュース〉〈マネジメント〉	卒業制作 ⑫ 〈マネジメント〉

演出コース

映画表現の本質を理解し、作品世界に対する多様な視点と観察力を身につけます。共同作業の中で映画演出の方法を体得し、コミュニケーション能力の向上を図ります。

系・コースに進んでからの学びのながれ

「演出系」として合同で授業を行います。

2年次前期	人間と映画の多様性についての理解を深める「演出基礎演習Ⅰ〈ドキュメンタリー〉」 短編ドキュメンタリーの制作を通して、映画制作フローの多様性を学びます。取材対象者との交流を深めながら自らの人間観を拡げ、現実を生きた人間を活写することの難しさと、人間に相対することの面白さを学びます。
2年次後期	シナリオの読解力、演出の基本要素である演技・カット割りの能力を身につける「演出基礎演習Ⅱ〈ワンシーン〉」 ワンシーンを演出することによって、映画の基本である「物語を映像で語る」とはということかを学びます。また、教員が監督する短編作品にスタッフ・キャストとして参加し、作品制作の流れと演出技術を体得し、映画制作における集団作業の重要性を学びます。
3年次前期	一人1本、3分間の作品を作る「演出専門演習〈3分エチュード〉」 全員が一本ずつ3分間の作品を企画、脚本執筆・監督します。また人の作品にスタッフ、キャストとして参加することで映画制作のノウハウとチームプレイの大切さを学び、映画演出の概念、物語の表現、人間の描き方、テーマの把握など、映画のリテラシーを実践的に修得します。
3年次後期	15分の短編映画を作る「合同制作」 脚本選りからキャスティング、ロケハンなどの制作準備を経て、身体表現・俳優、撮影照明、録音、編集、マネジメントコースと合同で、15分の短編映画を作ります。各コースに分かれて学んできた学生が集まり、各部の主張の中で一つの作品を作り上げることによって、卒業制作に向けたスキルの向上を図ります。
4年次	4年間の集大成「卒業制作〈ドラマ〉」 これまで修得したあらゆる知識と技術を総動員して、一般公開できるレベルの作品制作を目指します。出来上がった作品の上映まで自分たちの手で行うことで、映画をどのように観客に届けるのか、「見せる」ためのプロセスも体験的に学びます。

履修モデル

卒業必要単位数でモデル化したものです。実際は選択科目を増やしてこれ以上の単位を履修してください。

科目名後の丸数字は単位数

			1年次		2年次		3年次		4年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修	教養	基幹	ベーシック・スキル 1 ②			ベーシック・スキル 3 ②				
			ベーシック・スキル 2 ②							
			人間総合研究⑧							
計28単位	基礎		シナリオ基礎演習 ②	映画制作基礎演習 ⑧ 長編シナリオ演習 I ②	長編シナリオ演習 II ②					
選択必修	専門				演出基礎演習 I ⑧ 〈ドキュメンタリー〉	演出基礎演習 II ⑧ 〈ワンシーン〉	演出専門演習 ⑧ 〈3分エチュード〉	合同制作 ⑧	卒業制作(ドラマ) ⑫【通年】	
計48単位	専門基礎				ドキュメンタリーWS②	演出論 1 ②				
選択	教養	専門基礎 3科目めからは選択 科目に算入			映像リテラシーWS②	映画美術WS I ②	脚本創作論② 編集実践技術論②	演出論 2 ②		
		映画史	日本映画史 1 ②	映画史概論②	日本映画史 2 ②					
			映画史基礎②（単位付与は2年後期）							
			映画分析論②	テーマ研究 1 ② シナリオ研究②		表象文化論 2 ②		テーマ研究 5 ②		
			文学・芸術	文芸映画論②		映画と演劇②	映画と哲学②		映画と音楽②	
			歴史・社会科学		映画で学ぶ歴史と社会 1 ②	映画流通論②	映画と法②	映画で学ぶ歴史と社会 4 ②		映画で学ぶ歴史と社会5②
コミュニケーション					キャリア・サポート②					
合計124単位			計 20単位	計 18単位	計 18単位	計 20単位	計 16単位	計 16単位	計 2単位	計 14単位

身体表現・俳優コース

舞台の上やカメラの前に立って自然に動くための技術を身につけます。肉体訓練により身体感覚を発見し、演技を通じて他者との関係を意識し、表現することを目指します。

系・コースに進んでからの学びのながれ

「演出系」として合同で授業を行います。

2年次前期	人間と映画の多様性についての理解を深める「演出基礎演習Ⅰ〈ドキュメンタリー〉」 短編ドキュメンタリーの制作を通して、映画制作フローの多様性を学びます。取材対象者との交流を深めながら自らの人間観を拡げ、現実を生きる人間を活写することの難しさと、人間に相対することの面白さを学びます。
2年次後期	シナリオの読解力、演出の基本要素である演技・カット割りの能力を身につける「演出基礎演習Ⅱ〈ワンシーン〉」 ワンシーンを演出することによって、映画の基本である「物語を映像で語る」とはということかを学びます。また、教員が監督する短編作品にスタッフ・キャストとして参加し、作品制作の流れと演出技術を体得し、映画制作における集団作業の重要性を学びます。
3年次前期	俳優としての基本態度、基本技術と訓練法、演劇の制作過程を学びながら、演劇作品を作る「身体表現専門演習」 俳優としての基本態度、精神と肉体の集中力と持久力を身につけます。台本を深く読むための方法を理解し、登場人物の身体のあり方を意識しながら、作品づくりの過程でチームに貢献すること、連携することの重要性を学びます。
3年次後期	15分の短編映画を作る「合同制作」 脚本選びからキャスティング、ロケハンなどの制作準備を経て、演出、撮影照明、録音、編集、マネジメントコースと合同で、15分の短編映画を作ります。各コースに分かれて学んできた学生が集まり、各部の主張の中で一つの作品を作り上げることによって、卒業公演に向けたスキルの向上を図ります。
4年次	4年間の集大成「卒業制作〈公演〉」 これまで修得したあらゆる知識と技術を総動員して、卒業公演に取り組みます。

履修モデル

卒業必要単位数でモデル化したものです。実際は選択科目を増やしてこれ以上の単位を履修してください。

科目名後の丸数字は単位数

			1年次		2年次		3年次		4年次		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
必修	教養	基幹	ベーシック・スキル 1 ②			ベーシック・スキル 3 ②					
			ベーシック・スキル 2 ②								
	人間総合研究⑧										
計28単位	基礎		シナリオ基礎演習②	映画制作基礎演習⑧ 長編シナリオ演習Ⅰ ②	長編シナリオ演習Ⅱ ②						
選択必修	専門				演出基礎演習Ⅰ ⑧ 〈ドキュメンタリー〉	演出基礎演習Ⅱ ⑧ 〈ワンシーン〉	身体表現専門演習⑧	合同制作⑧	卒業制作(公演)⑫【通年】		
計48単位	専門基礎			演劇WS②		演出論 1 ②					
選択	専門基礎 3科目めからは選択 科目に算入				ドキュメンタリーWS②	映画美術WSⅠ ②	脚本創作論②	演出論 2 ②			
	教養	映画史	日本映画史 1 ②	映画史概論②	日本映画史 2 ②						
			映画史基礎②（単位付とは2年後期）								
		映画文化	映画分析論②	シナリオ研究②	映画解釈論②		テーマ研究 3 ②	テーマ研究 5 ② 日本文化論②			
			表象文化論 1 ②								
			文学・芸術		芸能概論②	ファッション文化史②	映画と演劇②	演劇史②		映画と哲学②	
			歴史・社会科学			映画流通論②		映画で学ぶ歴史と社会 3 ②			映画で学ぶ歴史と社会 4 ②
コミュニケーション						キャリア・サポート②					
合計124単位			計 20単位	計 18単位	計 20単位	計 18単位	計 16単位	計 16単位	計 2単位	計 14単位	

ドキュメンタリーコース

ノンフィクションもまたフィクションであることを理解し、映像と現実の不一致を確かめながら、メディアのあり方やジャーナリズムの役割について探究します。カメラを通して人間と向き合うとはどういうことか、映像によるコミュニケーションの多様性を学びます。

系・コースに進んでからの学びのながれ

「演出系」として合同で授業を行います。

2年次前期	人間と映画の多様性についての理解を深める「演出基礎演習Ⅰ〈ドキュメンタリー〉」 短編ドキュメンタリーの制作を通して、映画制作フローの多様性を学びます。取材対象者との交流を深めながら自らの人間観を拡げ、現実を生きる人間を活写することの難しさと、人間に相対することの面白さを学びます。
2年次後期	シナリオの読解力、演出の基本要素である演技・カット割りの能力を身につける「演出基礎演習Ⅱ〈ワンシーン〉」 ワンシーンを演出することによって、映画の基本である「物語を映像で語る」とはどういうことを学びます。また、教員が監督する短編作品にスタッフ・キャストとして参加し、作品制作の流れと演出技術を体得し、映画制作における集団作業の重要性を学びます。
3年次前期	縁もゆかりも無い土地で、初めて会う人と関係を築き、撮影をする「ドキュメンタリー専門演習Ⅰ」 すべての人にドラマがあるように、すべての街にそのドラマの背景があります。本演習では、合宿撮影を行い、その土地と人を描くことを考えます。インタビューや仕事風景、また取材対象者の日常を切り取り、映画言語を獲得することを目的としています。初めて出会う人々のどこに魅力を感じ、それをどう伝えるのか。ドキュメンタリー映画制作に必要な「他者性」を獲得する機会となるでしょう。
3年次後期	卒業制作に向けて企画立案を行うとともに、短編ドキュメンタリーを作る「ドキュメンタリー専門演習Ⅱ」 短編映画の制作を通じて、他者性を意識すると同時に自らの視点を獲得し、その視点を映像化することを学びます。また、ドキュメンタリー撮影のワークフローを修得します。卒業制作に向けて各自の企画を立案し、作品の可能性を検証しながらそれを練り上げます。
4年次	4年間の集大成「卒業制作〈ドキュメンタリー〉」 これまで修得したあらゆる知識と技術を総動員して、一般公開できるレベルの作品制作を目指します。出来上がった作品の上映まで自分たちの手で行うことで、映画をどのように観客に届けるのか、「見せる」ためのプロセスも体験的に学びます。

履修モデル

卒業必要単位数でモデル化したものです。実際は選択科目を増やしてこれ以上の単位を履修してください。

科目名後の丸数字は単位数

			1年次		2年次		3年次		4年次			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
必修	教養	基幹	ベーシック・スキル 1 ②			ベーシック・スキル 3 ②						
			ベーシック・スキル 2 ②									
計28単位	基礎	人間総合研究⑧										
		シナリオ基礎演習②	映画制作基礎演習⑧ 長編シナリオ演習Ⅰ②	長編シナリオ演習Ⅱ②								
選択必修	専門			演出基礎演習Ⅰ⑧ 〈ドキュメンタリー〉	演出基礎演習Ⅱ⑧ 〈ワンシーン〉	ドキュメンタリー 専門演習Ⅰ⑧	ドキュメンタリー 専門演習Ⅱ⑧	卒業制作(ドキュメンタリー)⑫〔通年〕				
計48単位	専門基礎			ドキュメンタリーWS②	演出論 1 ②							
選択	専門基礎 3科目めからは選択 科目に算入			映像リテラシーWS②	動画配信WS②	編集実践技術論②	演出論 2 ②					
											映画史	日本映画史 1 ②
	映画史基礎②（単位付与は2年後期）											
	映画文化	映画分析論②	テーマ研究 1 ②		表象文化論 2 ②							
		表象文化論 1 ②										
		文学・芸術		芸能概論②		写真論②						
		歴史・社会科学		映画で学ぶ歴史と社会 1 ②			映画で学ぶ歴史と社会 3 ②	映画で学ぶ歴史と社会4②	映画と法②	映画で学ぶ歴史と社会 6 ②		
コミュニケーション					こども映画教育Ⅰ② 文章表現②	こども映画教育Ⅱ② キャリア・サポート②						
合計124単位			計 20単位	計 18単位	計 18単位	計20単位	計 16単位	計 16単位	計 2単位	計 14単位		

撮影照明コース

映像の歴史と技術を知り、ドラマを映像というかたちで具現化する方法を探究します。脚本の理解、的確な照明やフレーミング、カメラワークなどの映像表現技術を身につけます。

コースに進んでからの学びのながれ

2年次前期	撮影・照明の基礎知識を身につける「撮影照明基礎演習」 撮影・照明についての基礎（露出・照明比・色温度・フレーム感覚・文字情報を映像に変換する技術など）を学びます。各種機材の特性と扱いを実践的に修得します。また、技術系コースとの合同演習を通して技術パートの連携を理解します。
2年次後期	デジタルシネマ技術の特性を理解する「撮影照明専門演習」 デジタルシネマの基礎と撮影照明の役割を理解し、短編映画制作を通して修得した技術を作品に反映する方法を学びます。また演出と撮影の関わりを深く理解し、撮影現場の運営がスムーズにできるよう、技術レベルのスキルアップを図ります。
3年次前期	撮影と照明についての理解を深め、実践的なスキルを身につける「技術合同演習」 録音、編集コースとともに、プロの監督の下で短編映画を制作します。ライティングと的確なフレーム作りを修得し、撮影・照明についての理解を深めます。また、シナリオのテーマを理解し、作品のクオリティの向上にどうコミットするべきかを実践的に考えます。
3年次後期	15分の短編映画を作る「合同制作」 演出、身体表現・俳優、録音、編集、マネジメントコースと合同で15分の短編映画制作を行います。多くのスタッフ、パートと協力して作品を作ることで、コミュニケーション能力と多角的視点を身につけます。また、CM制作などを行い、卒業制作に向けて撮影照明の技術を高めます。
4年次	4年間の集大成「卒業制作(ドラマ)」 これまで修得したあらゆる知識と技術を総動員して、一般公開できるレベルの作品制作を目指します。出来上がった作品の上映まで自分たちの手で行うことで、映画をどのように観客に届けるのか、「見せる」ためのプロセスも体験的に学びます。

履修モデル

卒業必要単位数でモデル化したものです。実際は選択科目を増やしてこれ以上の単位を履修してください。

科目名後の丸数字は単位数

			1年次		2年次		3年次		4年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修	教養	基幹	ベーシック・スキル 1 ②			ベーシック・スキル 3 ②				
			ベーシック・スキル 2 ②							
			人間総合研究⑧							
計28単位		基礎	シナリオ基礎演習②	映画制作基礎演習⑧ 長編シナリオ演習 I ②	長編シナリオ演習 II ②					
選択必修		専門			撮影照明基礎演習⑧	撮影照明専門演習⑧	技術合同演習⑧	合同制作⑧	卒業制作(ドラマ)⑫【通年】	
計48単位		専門基礎			映像リテラシーWS②	動画配信WS②				
選択	教養	専門基礎 3科目めからは選択 科目に算入			ドキュメンタリーWS②	映画美術WS I ②	編集実践技術論②			
		映画史	日本映画史 1 ②	映画史概論②	日本映画史 2 ②					
			映画史基礎②（単位付与は2年後期）							
			映画分析論②	テーマ研究 1 ②	映画解釈論②		アニメーション・特撮文化論②	テーマ研究 4 ②	フィルム・アーカイヴ②	
		映画文化	表象文化論 1 ②	サブ・カルチャー論②			テーマ研究 5 ②			
		文学・芸術				写真論②	映画と音楽②			
		歴史・社会科学		映画で学ぶ歴史と社会 1 ②		デジタル映像技術概論②			映画で学ぶ歴史と社会 4 ②	
		コミュニケーション					こども映画教育 I ② キャリア・サポート②	こども映画教育 II ②		
合計124単位			計 20単位	計 18単位	計 18単位	計 20単位	計 16単位	計 16単位	計 2単位	計 14単位

録音コース

映画を聴覚の側面から捉えなおし、音による表現の技術と方法を探求します。撮影現場での録音からスタジオでの整音、加工、最終ミックスまで、映画の音をつくるすべてのプロセスを実践的に学びます。

コースに進んでからの学びのながれ

2年次前期	映画における音の役割を理解する「録音基礎演習」 現場からポストプロダクションまで関わる録音技術者の仕事の流れを理解します。音の物理基礎、電気の基礎、デジタルの基礎など必要な知識を学び、映画録音に最低限必要な機材の使い方を身につけます。また、技術系コースとの合同演習を通して技術パートの連携を理解します。
2年次後期	高度な技術の修得を目指す「録音専門演習」 スタジオワークを学び、仕上げ作業の流れを理解するとともに、効果音やフォーリーへの造詣を深めます。プレイバック撮影、サラウンドなど、より高度な技術課題について学びます。また、音声のみでの作品（音声ドラマ）を制作することにより、音声表現の制約と可能性を学びます。
3年次前期	録音についての理解を深め、実践的なスキルを身につける「技術合同演習」 撮影照明、編集コースとともに、プロの監督の下で短編映画を制作します。現場ではレコーディング、マイクオペレート、マイクアレンジについて学びます。また、映画音楽について理解を深め、5.1サラウンドでの映画の音作りを学びます。デジタル録音の概念と、セリフ・効果音・音楽の担当者が協同して作品を完成させることを実践的に理解します。
3年次後期	15分の短編映画を作る「合同制作」 演出、身体表現・俳優、撮影照明、編集、マネジメントコースと合同で15分の短編映画制作を行います。多くのスタッフ、パートと協力して作品を作ることで、コミュニケーション能力と多角的視点を身につけます。ワイヤレスマイクを使用したマルチトラック録音と仕上げでの処理方法を学び、卒業制作に向けて録音の技術を高めます。
4年次	4年間の集大成「卒業制作(ドラマ)」 これまで修得したあらゆる知識と技術を総動員して、一般公開できるレベルの作品制作を目指します。出来上がった作品の上映まで自分たちの手で行うことで、映画をどのように観客に届けるのか、「見せる」ためのプロセスも体験的に学びます。

履修モデル

卒業必要単位数でモデル化したものです。実際は選択科目を増やしてこれ以上の単位を履修してください。

科目名後の丸数字は単位数

			1年次		2年次		3年次		4年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修	教養	基幹	ベーシック・スキル 1 ②			ベーシック・スキル 3 ②				
			ベーシック・スキル 2 ②							
			人間総合研究⑧							
計28単位	基礎		シナリオ基礎演習②	映画制作基礎演習⑧ 長編シナリオ演習 I ②	長編シナリオ演習 II ②					
選択必修	専門				録音基礎演習⑧	録音専門演習⑧	技術合同演習⑧	合同制作⑧	卒業制作(ドラマ)⑫【通年】	
計48単位	専門基礎									
選択	教養	専門基礎 3科目めからは選択 科目に算入			ドキュメンタリーWS②	映画美術WS I ②	編集実践技術論②			
		映画史	日本映画史 1 ②	映画史概論②	日本映画史 2 ②					
			映画史基礎②（単位付与は2年後期）							
			映画分析論②	テーマ研究 1 ②	映画解釈論②			テーマ研究 5 ②	フィルム・アーカイヴ②	
		映画文化 表象文化論 1 ②	サブ・カルチャー論②							
		文学・芸術					映画と音楽②			
		歴史・社会科学		映画で学ぶ歴史と社会 1 ②	映画流通論②	デジタル映像技術概論②	映画と法②	映画で学ぶ歴史と社会 4 ②		映画で学ぶ歴史と社会 5 ②
計48単位	コミュニケーション					こども映画教育 I ②	こども映画教育 II ② キャリア・サポート②			
		合計124単位		計 20単位	計 18単位	計 20単位	計 18単位	計 16単位	計 16単位	計 2単位

編集コース

映像をモンタージュ（編集）することによって新たな意味を生み出し、ドラマを語る方法を探究します。撮影された素材を新たに組み立てなおし、より深いドラマの解釈を提示するための技術を学びます。

コースに進んでからの学びのながれ

2年次前期	映画における編集の重要性を理解する「編集基礎演習」 編集の発生や成り立ちについて学び、道具や機材の取り扱い方などの基礎知識を修得します。実験的にモンタージュすることで映画における編集の重要性を認識します。また、技術系コースとの合同演習を通して技術パートの連携を理解します。
2年次後期	高度な技術の修得を目指す「編集専門演習」 映像制作ソフトの使い方を実践的に修得します。30分程度のドラマ素材を用いた編集、短編映画の編集を通して、限られた素材の中から選び出す能力と構成力を高めます。
3年次前期	編集についての理解を深め、実践的なスキルを身につける「技術合同演習」 撮影照明、録音コースとともに、プロの監督の下で短編映画を制作します。編集と、演出、撮影・照明や録音との関係について理解を深めるとともに、チームワークの必要性を理解しコミュニケーション能力の向上を図ります。
3年次後期	15分の短編映画を作る「合同制作」 演出、身体表現・俳優、撮影照明、録音、マネジメントコースと合同で15分の短編映画制作を行います。多くのスタッフ、パートと協力して作品を作ることで、コミュニケーション能力と多角的視点を身につけます。また、予告編の制作などを通して、卒業制作に向けて編集の技術を高めます。
4年次	4年間の集大成「卒業制作(ドラマ)」 これまで修得したあらゆる知識と技術を総動員して、一般公開できるレベルの作品制作を目指します。出来上がった作品の上映まで自分たちの手で行うことで、映画をどのように観客に届けるのか、「見せる」ためのプロセスも体験的に学びます。

履修モデル

卒業必要単位数でモデル化したものです。実際は選択科目を増やしてこれ以上の単位を履修してください。

科目名後の丸数字は単位数

			1年次		2年次		3年次		4年次		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
必修	教養	基幹	ベーシック・スキル 1 ②			ベーシック・スキル 3 ②					
			ベーシック・スキル 2 ②								
計28単位		基礎	人間総合研究⑥								
			シナリオ基礎演習②	映画制作基礎演習⑧ 長編シナリオ演習Ⅰ②	長編シナリオ演習Ⅱ②						
選択必修		専門			編集基礎演習⑧	編集専門演習⑧	技術合同演習⑧	合同制作⑧	卒業制作(ドラマ)⑫【通年】		
計48単位		専門基礎			映像リテラシーWS②		編集実践技術論②				
			専門基礎 3科目めからは選択 科目に算入			動画配信WS② 演出論 1 ②					
選択	教養	映画史	日本映画史 1 ②	映画史概論②	日本映画史 2 ②						
			映画史基礎② (単位付与は2年後期)								
		映画文化	映画分析論②	テーマ研究 1 ②	映画解釈論②	表象文化論 2 ②		テーマ研究 5 ②	フィルム・アーカイヴ②		
			表象文化論 1 ②	シナリオ研究②				テーマ研究 6 ②			
		文学・芸術					映画と音楽② 映画と哲学②				
			歴史・社会科学		映画で学ぶ歴史と社会 1 ②	映画流通論②	デジタル映像技術概論②	映画と法②	映画で学ぶ歴史と社会 4 ②		映画で学ぶ歴史と社会 5 ②
		コミュニケーション						キャリア・サポート②			
合計124単位			計 20単位	計 18単位	計 18単位	計 20単位	計 16単位	計 16単位	計 2単位	計 14単位	

VFX特殊撮影コース

今日の映画制作のワークフローにおいて欠かすことの出来ない映像の視覚効果に関する概念や知識を網羅的に実践を通して学びながら、その技術や技法を身に着け、映画界の中核を担える人材を育成します。特殊撮影技術と最新のデジタルVFX技術とを並列的に習得できるのが本コースの特色であり、すべての講義は専門的かつ実践的な内容になります。また日本で発達した【特撮】の文化的意義、技術的意義をあらたな視点で捉え直し、変化しつづける映像業界のニーズに答えられるバランスの取れた人材の育成を目指します。

コースに進んでからの学びのながれ

2年次前期	VFX・特撮のリテラシー向上と基礎概念の理解、最新技法につながる基礎を習得する「VFX特殊撮影基礎演習Ⅰ」 作品研究からVFX・特殊撮影の基礎的知識を向上させるとともに技術発達史の学びを通じて、その概念を理解します。機材の取り扱いに習熟し、特殊撮影の基礎的手法を習得します。画像合成の概念を理解し、画像処理ソフトウェアを用いて基礎的な画像合成手法の演習を行います。
2年次後期	VFX・特殊撮影の演出概念と作品への取り組み方を理解し、適用技術の知識を深める「VFX特殊撮影基礎演習Ⅱ」 特殊撮影技術全般（特殊美術・特殊効果・操演など）への知識を得ながら理解を深め、その使用法や適用法を学びます。並行してデジタルによる画像処理の概念と技法を学びます。VFX・特撮の演出手法・プランニングを実例から学び、その技術分析と研究をします。
3年次前期	ケースメソッドによるVFX特殊撮影の理解と実践を繰り返し、3DCGの基礎を学ぶ「VFX特殊撮影専門演習Ⅰ」 2年次までに習得した知識と技法を用いて、VFX・特殊撮影に関する代表的な課題に取り組み、実践を通してスキルアップを図ります。CGの基礎知識を学びながら3D空間の概念を理解するとともに、実写映像における3DCGの利用法の実際を学びます。
3年次後期	VFX・特撮を取り入れた短編映画を作ってグループワークによる協働の訓練をする「VFX特殊撮影専門演習Ⅱ」 短編作品の企画から完成までをグループワークで行い、制作実務を経験しながら様々な技術や知識を習得し、協業の力を身につけます。短編制作を通じてデジタル画像処理のスキルを実践から獲得します。
4年次	VFX・特撮場面を軸としたドラマ作りからVFX・特撮技術者のスキルを獲得する「卒業制作〈VFX特殊撮影ドラマ〉」 コースの特性を活かした企画・脚本による視覚効果を見所としたドラマ制作をコース生で行います。出来上がった作品の上映まで自分たちの手で行うことで、映画をどのように観客に届けるのか、「見せる」ためのプロセスも体験的に学びます。

履修モデル

卒業必要単位数でモデル化したものです。実際は選択科目を増やしてこれ以上の単位を履修してください。

科目名後の丸数字は単位数

			1年次		2年次		3年次		4年次		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
必修	教養	基幹	ベーシック・スキル 1 ②			ベーシック・スキル 3 ②					
			ベーシック・スキル 2 ②								
			人間総合研究⑧								
計28単位	基礎		シナリオ基礎演習②	映画制作基礎演習⑧ 長編シナリオ演習 Ⅰ ②	長編シナリオ演習Ⅱ ②						
選択必修	専門				VFX特殊撮影 基礎演習Ⅰ⑧	VFX特殊撮影 基礎演習Ⅱ⑧	VFX特殊撮影 専門演習Ⅰ⑧	VFX特殊撮影 専門演習Ⅱ⑧	卒業制作〈VFX特殊撮影ドラマ〉⑫【通年】		
計48単位	専門基礎				映像リテラシーWS②	動画配信WS②					
選択	専門基礎 3科目めからは選択 科目に算入					演出論 1 ②	編集実践技術論②				
	教養	映画史	日本映画史 1 ②	映画史概論②	日本映画史 2 ②						
			映画史基礎②（単位付与は2年後期）								
		映画文化	映画分析論②	テーマ研究 1 ②	映画解釈論②	表象文化論 2 ②	テーマ研究 3 ②	テーマ研究 4 ②	フィルム・アーカイヴ②		
			表象文化論 1 ②	サブ・カルチャー論②			アニメーション・特撮文化論②				
			文学・芸術			美術史 1 ②		映画と音楽②	映像と美術②		
			歴史・社会科学		映画で学ぶ歴史と社会 1 ②		デジタル映像技術概論②		映画で学ぶ歴史と社会 4 ②		映画で学ぶ歴史と社会 5 ②
コミュニケーション						キャリア・サポート②					
合計124単位			計 20単位	計 18単位	計 18単位	計 20単位	計 16単位	計 16単位	計 2単位	計 14単位	

脚本コース

映画作りの要となる「脚本（シナリオ）」を学び、書く技術を身につけるとともに、社会や人間への理解を深め、映画表現の可能性を探究します。

系・コースに進んでからの学びのながれ

「文章系」として合同で授業を行います。

2年次前期	文章を書いて発表するための前提を身につける「文章系基礎演習Ⅰ」 1年次の脚本のノベライズ、グループに分かれての座談会、校外学習（美術館等の訪問とレポート）、与えられたテーマについての作文を通して、文章とはひとりで書くものではないということを学びます。また、そこで達成された成果物は、雑誌として活字化します。それによって、原稿執筆と校正という出版業界の基本的なルール、および、文章を活字として世に問うことの責任を理解します。
2年次後期	着眼力と発想力を磨いて物語を産み出す「文章系基礎演習Ⅱ」 日常に存在している「物語のタネ」を見つけ出し、創作（物語）へと昇華させる発想力を磨きます。様々な事象や事物に対して思考的アプローチを重ねることで、社会や人間に対する理解を深め、題材・テーマ・設定・人物造形などの物語へと繋がるヒントを見つけ出します。
3年次前期	「脚本専門演習Ⅰ〈脚本技法〉」 短編シナリオの執筆やシナリオ分析、シナリオハンティングや資料読解などシナリオを執筆する上で必要な専門的な思考法や技術を学びます。またアニメやテレビドラマなどのシナリオについても概論や実践を通して理解を深めます。
3年次後期	原作小説を脚色して長編シナリオを書く「脚本専門演習Ⅱ〈脚色〉」 原作を元に長編シナリオを執筆します。小説とシナリオの違いを知り、映画表現とは何かを学びます。構成本などの専門的な技術を修得すると同時に長編を書く持続力を身につけます。
4年次	4年間の集大成「卒業制作〈シナリオ〉」 これまで修得したあらゆる知識と技術を用いて、劇場用映画（250枚）のシナリオを執筆します。完成したシナリオは外部コンクールへの応募を目指すとともに「卒業シナリオ集」にまとめます。

履修モデル

卒業必要単位数でモデル化したものです。実際は選択科目を増やしてこれ以上の単位を履修してください。

科目名後の丸数字は単位数

			1年次		2年次		3年次		4年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修	教養	基幹	ベーシック・スキル 1 ②			ベーシック・スキル 3 ②				
		ベーシック・スキル 2 ②								
計28単位	基礎	人間総合研究⑧								
		シナリオ基礎演習②	映画制作基礎演習⑧ 長編シナリオ演習 I ②	長編シナリオ演習 II ②						
選択必修	専門			文章系基礎演習 I ⑧	文章系基礎演習 II ⑧	脚本専門演習 I ⑧ 〈脚本技法〉	脚本専門演習 II ⑧ 〈脚色〉	卒業制作(シナリオ)⑫〔通年〕		
計48単位	専門基礎				演出論 1 ②	脚本創作論②				
	専門基礎 3科目めからは選択 科目に算入			映像リテラシーWS②	動画配信WS②		演出論 2 ②			
選択	教養	映画史	日本映画史 1 ②	映画史概論②	日本映画史 2 ②					
			映画史基礎②（単位付与は2年後期）							
		映画文化	映画分析論②	シナリオ研究②		表象文化論 2 ②				日本文化論②
		文学・芸術	文芸映画論②	映画と文学②		文学②	映画と哲学②		英米文学②	
		歴史・社会科学		映画で学ぶ歴史と社会 1 ②	映画流通論②		映画で学ぶ歴史と社会3②	映画で学ぶ歴史と社会 4 ②		
					社会学②		映画と法②	映画で学ぶ歴史と社会 5 ②		
計48単位	コミュニケーション					キャリア・サポート②				
	合計124単位		計 20単位	計 18単位	計 18単位	計 20単位	計 16単位	計 16単位	計 2単位	計 14単位

文芸コース

評論や小説を書くために必要な知識と技術を身につけます。言語世界を構築していくとはどういうことかを理解し、言葉として成立させるための技術、文章を書く力と持続力を徹底的に鍛えます。

系・コースに進んでからの学びのながれ

「文章系」として合同で授業を行います。

2年次前期	文章を書いて発表するための前提を身につける「文章系基礎演習Ⅰ」 1年次の脚本のノベライズ、グループに分かれての座談会、校外学習（美術館等の訪問とレポート）、与えられたテーマについての作文を通して、文章とはひとりで書くものではないことを学びます。また、そこで達成された成果物は、雑誌として活字化します。それによって、原稿執筆と校正という出版業界の基本的なルール、および、文章を活字として世に問うことの責任を理解します。
2年次後期	着眼力と発想力を磨いて物語を産み出す「文章系基礎演習Ⅱ」 日常に存在している「物語のタネ」を見つけ出し、創作（物語）へと昇華させる発想力を磨きます。様々な事象や事物に対して思考的アプローチを重ねることで、社会や人間に対する理解を深め、題材・テーマ・設定・人物造形などの物語へと繋がるヒントを見つけ出します。
3年次前期	自らの考えを適切に文章で表現するための技術を学ぶ「文芸専門演習Ⅰ〈小説〉」 日本文学の名作を読み解き、体感的に理解しながら書くことを通じて文学的なセンスと感覚を身につけ、表現力、思考力、構成力、着想の技術をきたえます。
3年次後期	様々なジャンルの批評を読む力・書く力を身につける「文芸専門演習Ⅱ〈批評〉」 様々な批評文を取りあげ、それらが対象についていかに思考し、その思考を作品化しているかを学びます。また、最終課題の批評文の執筆に向けて、執筆計画、議論、発表、宿題（予定）などを行い、読む力・書く力を高めます。
4年次	4年間の集大成「卒業制作〈文芸〉」 これまでに修得したあらゆる知識と技術をもって、小説または評論の執筆に取り組みます。完成した作品は「卒業文集」にまとめます。

履修モデル

卒業必要単位数でモデル化したものです。実際は選択科目を増やしてこれ以上の単位を履修してください。

科目名後の丸数字は単位数

			1年次		2年次		3年次		4年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修	教養	基幹	ベーシック・スキル 1 ②			ベーシック・スキル 3 ②				
			ベーシック・スキル 2 ②							
			人間総合研究⑧							
計28単位		基礎	シナリオ基礎演習②	映画制作基礎演習⑧ 長編シナリオ演習 I ②	長編シナリオ演習 II ②					
選択必修		専門			文章系基礎演習 I ⑧	文章系基礎演習 II ⑧	文芸専門演習 I ⑧ 〈小説〉	文芸専門演習 II ⑧ 〈批評〉	卒業制作(文芸)⑫[通年]	
計48単位		専門基礎			ドキュメンタリーWS②		脚本創作論②			
選択	教養	専門基礎 3科目めからは選択 科目に算入			映像リテラシーWS②	動画配信WS②				
		映画史	日本映画史 1 ②	映画史概論②	日本映画史 2 ②					
			映画史基礎② (単位付与は2年後期)							
			映画文化	映画分析論②	シナリオ研究②	映画解釈論②	表象文化論 2 ②	テーマ研究 3 ②	テーマ研究 6 ②	
		文学・芸術	文芸映画論②	映画と文学②		写真論② 文学②	映画と哲学②		英米文学②	映像と美術②
		歴史・社会科学		映画で学ぶ歴史と社会 1 ②			映画で学ぶ歴史と社会3②	映画で学ぶ歴史と社会 4 ② 映画で学ぶ歴史と社会 5 ②		
		コミュニケーション						キャリア・サポート②		
合計124単位			計 20単位	計 18単位	計 18単位	計 20単位	計 16単位	計 16単位	計 2単位	計 14単位

マネジメントコース

映画の始まりである〈企画開発〉を行う企画プロデュースと、完成作品を配給宣伝を経て劇場で公開し、さらには配信など全ての利用によって作品価値の最大化を生み出す映画ビジネス。これら映画のマネジメントを学ぶことで、これからの映画界の持続的発展と次世代の映画と映画人を生み出す原動力を身につけます。

コースに進んでからの学びのながれ

2年次前期	映画の工程全体を把握した上で、手始めとして企画開発と上映会準備を学ぶ「マネジメント基礎演習Ⅰ」 映画のすべてを知るために制作と公開の工程（ワークフロー）の流れを追って学びます。映画の始まりである企画の立て方を学び、実際に企画書を作り、映画制作に活用されている最先端のDXアプリを学習します。2年後期の演習で行う上映会の準備を始めます。
2年次後期	前期に学んだことをさらに深めながら、制作実習を体験することで映画の立脚点を学ぶ「マネジメント基礎演習Ⅱ」 第三者と協働して上映会を企画・運営します。日々変化・進歩する最先端の映画ビジネスを具体的に学び、作品の公開計画を立てられるようにします。映画の流れの中心にある「映画制作」を身をもって体験し理解することで、映画人としての立脚点を固めます。
3年次前期	制作と公開のワークフロー演習を深化させて実際に活用できるようにする「マネジメント専門演習Ⅰ」 実際の作品を基に制作ワークフローをさらに深く理解し、実践的に活用できるようにします。制作とは別の現場である映画祭と劇場について実地で学びます。映画ビジネスに必須の資金調達から回収・利益配分までの工程、制作経理・製作費の管理について学びます。
3年次後期	プロデュースとマネジメントの2つの班に分かれて授業を行います。 15分の短編映画を作る合同制作「マネジメント専門演習Ⅱ〈プロデュース〉」 4年次の卒業制作への準備として、演出、身体表現・俳優、撮影照明、録音、編集コースとの「合同制作」に参加して短編制作を行います。2週間の基礎準備を経て、合流後は制作部・美術部を担当、制作要員として各スタッフとよく連携して現場を支えます。 映画祭準備を進めつつインターンシップで実地経験を積む「マネジメント専門演習Ⅱ〈マネジメント〉」 映画祭準備では、4年次に卒業制作として実施する映画祭「日本映画大学フェス」の上映企画の検討と運営構築を進めます。また、「合同制作」作品の宣伝物制作のために現場に参加します。このほかに、4週間のインターンシップで企業での実践経験を積みます。
4年次	プロデュースとマネジメントの2つの班に分かれつつ、互いに協働して卒業制作を行います。 集大成としての映画制作と映画祭開催「卒業制作〈マネジメント〉」 映画の制作と公開の工程全てを学んだ成果として、自分たちが企画開発したドラマを制作します。また、その作品を含めた卒業制作作品と企画上映作品による映画祭「日本映画大学フェス」を開催します。

履修モデル

卒業必要単位数でモデル化したものです。実際は選択科目を増やしてこれ以上の単位を履修してください。

			1年次		2年次		3年次		4年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修 計28単位	教養	基幹	ベーシック・スキル 1 ② ベーシック・スキル 2 ② 人間総合研究⑥			ベーシック・スキル 3 ②				
		基礎	シナリオ基礎演習②	映画制作基礎演習⑧ 長編シナリオ演習 I ②	長編シナリオ演習 II ②					
		専門			マネジメント基礎演習 I ⑧ マネジメント基礎演習 II ⑧	マネジメント専門演習 I ⑧ マネジメント専門演習 II ⑧ (プロデュース)(マネジメント)	卒業制作(マネジメント)⑫【通年】			
選択必修 計48単位	専門基礎					演出論 1 ②	脚本創作論②			
選択 計48単位	専門基礎 3科目めからは選択 科目に算入				映像リテラシーWS②	動画配信WS②		演出論 2 ②		
	教養	映画史	日本映画史 1 ②	映画史概論②	日本映画史 2 ②					
		映画史基礎② (単位付与は2年後期)								
		映画文化	映画分析論② 表象文化論 1 ②	シナリオ研究②	映画解釈論②	表象文化論 2 ②			アニメーション・特撮文化論② テーマ研究 5 ②	
		文学・芸術		映画と文学②		写真論②	映画と音楽②			
		歴史・社会科学		映画で学ぶ歴史と社会 1 ②	映画流通論②		映画と法② 映画で学ぶ歴史と社会 4 ② 映画で学ぶ歴史と社会 5 ②			
		コミュニケーション					文章表現② キャリア・サポート②			
	合計124単位		計 20単位	計 18単位	計 18単位	計 20単位	計 16単位	計 16単位	計 2単位	計 14単位